

すべき委員の未定、少くとも二百名を獲得し、その人とした幹部の苦慮、為に同月二十三日迄迄々に存つた。十二日の俱樂部連絡委員会は大会代議員に就いて次の如く協議した。

即ち代議員の選出は各支部を網羅して決定すること、依つて其の動員に關しては、神明町五〇名、赤坂五〇名、南町五〇名、青山五〇名、芝浦工場は懇談会を南町にて決定、柳島不明、猶木組織職場に對しては、宮井が極力勧誘すること。

斯くして十一月二十三日、芝青年團會館に結成大会を擧げた。當日の出席者二百七十一名、傍聴者約五十名、伊藤誠司公の挨拶と述べ

- 議長 長 池田多藏 (青山)
- 副議長 長 宮井昌吉 (赤坂)
- 書記 小林信吉 (前職者)
- 大前 優 ()
- 資格審査委員長 金井又逸 (神明町)
- 規約審査委員長 池田石太郎 (赤坂)
- 以上各種委員選任の後、型の如く大会議事を進めた。後記宣誓を為し、綱領を決定、二十五項目に亘る議案審議を終えて、役員詮衡

と述べ

委員長手塚太郎外五名の委員は、在り如く本部役員を發表した。()

- 組合理事長 宮井昌吉 (赤坂)
- 常任理事 浜田藤次郎 (青山車庫)
- 芝浦部長 馬場立四三 (南町)
- 教育部長 伊藤 誠 (柳島)
- 組織部長 池田多藏 (青山)
- 教授部長 金井又逸 (南町)
- 會計 馬場立四三 (南町)
- 池田石太郎 (赤坂)
- 高山久藏 (總聯合)

相談役 高山久藏 (總聯合)

斯くして昭和七年十一月以来、日本主義交通労働組合準備会、或は日本交通俱樂部、日本交通従業員組合準備会等。名稱を以て、企圖の川つ、あつた。右翼組合運動も漸く衰を結んだ。東支内紛の塵に東じて幾何の同志をその傘下に集め得るか、日本主義詠歌の聲は市電従業員大衆に如何に響き、如何に影響したか、大会に於ては二百數十名を動員したものの、東支の内紛一掃と、ついでに日排撃の叫びは、日本交通従業員組合の發展過程に勘かられる防けとなるもの